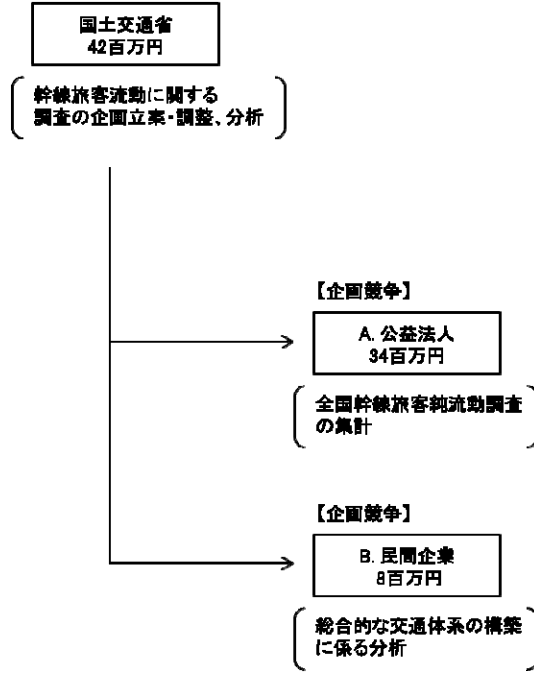


平成24年行政事業レビューシート (国土交通省)

<b>事業名</b>		全国幹線旅客純流動調査		担当部局庁	総合政策局	作成責任者			
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>		H13～		担当課室	参事官(総合交通体系)	参事官 秋村 成一郎			
<b>会計区分</b>		一般会計		施策名	37 総合的な国土形成を推進する				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>		-		関係する計画、通知等	国土形成計画(全国計画)(H20年7月4日閣議決定)				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>		総合的な交通体系の整備を社会的要請に沿って効率的に進めるにあたっては、旅客流動の現況を的確に捉えるとともに、将来需要の予測などの分析が不可欠である。本調査は、幹線交通に係る基礎情報として、交通機関別の流動量や旅客の属性、旅行目的などのデータを定期的に取得・整理し、現状を施策へ反映させるとともに、関係行政機関等へ提供することを目的とする。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>		5年毎に各交通機関の所管部局による実態調査を組み合わせ、「全国幹線旅客純流動調査」として、旅客の流動量や属性、旅行目的等の情報を取得・整理する。結果は、幹線旅客流動の実態を網羅的に把握した唯一のデータとして、交通分野において広く活用されている。また、調査対象が社会経済情勢や交通サービス水準の影響を受けて刻々と変化するものであるところ、平成25年度は、社会的要請を踏まえて調査方法の改良を検討する。また、手法が専門的かつ高度で、関係者も多岐にわたり、事前の綿密な検討・調整が必要なため、平成27年に予定する次回調査の円滑な実施に向け、実施計画の作成に着手する。							
<b>実施方法</b>		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		予算の状況	当初予算	15	14	45	15		
			補正予算	0	0	0	0		
			繰越し等	0	0	0	0		
		計		15	14	45	15		
		執行額		14	14	42			
執行率(%)		95.2%	99.0%	95.0%					
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>		成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
		本施策は、総合的な交通体系の分析ツールの作成、提供とその効果的な活用を図るものであり、成果目標及び成果実績を明確に示すことは困難な性質のものである。		成果実績					
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>		活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		本施策は、総合的な交通体系の分析ツールの作成、提供とその効果的な活用を図るものであり、活動指標を定めて実施する性質のものではない。		活動実績(当初見込み)			( )	( )	( )
<b>単位当たりコスト</b>		3.8百万円/項目		算出根拠	X:実績額 (42百万円) Y:検討項目(11項目)				
平成24・25年度予算内訳	費目		24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	職員旅費		0.1百万円						
	国土形成推進調査費		14.9百万円						
	計		15百万円	0					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	・公共投資の効率化・透明化に係る社会的要請に応えるものであり、交通事業者等から強いニーズがある。 ・また、全国的な視点での調査であり、透明性確保の観点からも国において実施すべきものである。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・検討内容が専門的かつ高度であることから、第三者機関である企画競争有識者委員会に諮った上で、受注者を選定しており、競争性を確保している。 ・大規模かつ専門性が高い調査を、変化する調査環境に対応しつつ、社会的要請に応えた形で実施するためには、計画的対応が必要であり、内容を精選した上で業務発注している。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	・純流動の観点から幹線交通機関における輸送実態を網羅的に把握する唯一の調査である。 ・全国幹線旅客純流動調査の結果は、交通・観光関係の行政部局、事業者に広く活用されており、需要予測や事業計画策定に不可欠なものとなっている。 (第4回調査の利用件数:約6千件)
	-	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	-	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	-	※類似事業名とその所管部局・府省名	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果		<p>・全国幹線旅客純流動調査は、幹線交通の輸送実態を網羅的に把握する唯一の調査であり、調査結果に対する強いニーズがある。</p> <p>・当該調査は、専門性が高く、関係主体も多いため、調査環境の変化等に対応するには、知見や技術を有する専門家を交えた上で、計画的かつ綿密な事前の対応が必要である。</p> <p>・透明性を確保した上で受注者を選定しており、競争性は十分に確保されている。</p>	
予算監視・効率化チームの所見			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	86	平成23年行政事業レビュー	32

※平成23年度実績を記入



**資金の流れ**  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者について  
 記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かるように記載)

A.(財)運輸政策研究機構			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務費	全国幹線旅客純流動調査の集計	34			
計		34	計		0
B.(株)三菱総合研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務費	総合的な交通体系の構築に係る分析	8			
計		8	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)運輸政策研究機構	平成22年に実施した第5回全国幹線旅客純流動調査について、旅客へのアンケート結果や事業者提供データを基に必要な処理等を行い、結果を集計	34	2	99.9%
2	(株)三菱総合研究所	総合的な交通のあり方に関して、関係する各主体の視点から体系的に整理し、将来の社会情勢等の変化を考慮した総合的な交通政策の目標設定や評価手法を検討	8	3	99.9%
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					